

環境経営レポート



エコアクション21



2023年度（2023年4月～2024年3月）

大和運送建設株式会社

作成日 2024年7月20日

[目 次]

1. 組織の概要	①組織の概要	2
	②環境経営システム組織図	10
2. 対象範囲		10
3. 環境経営方針		11
4. 中期環境経営目標		12
5. 環境経営計画		16
6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価、 次年度の環境経営目標及び環境経営計画		17
7. 環境関連法規制の遵守状況及び違反、訴訟等の有無		30
8. 代表者による全体の評価と見直し・指示		38

1. 組織の概要

① 組織の概要

■ 事業所名 大和運送建設株式会社

■ 代表者 代表取締役社長 元井 秀哲（環境運営に係る最高責任者）

■ 所在地

- ・本社 [総務部・経理部・不動産部・車両管理部（車検・損保取扱）・珪砂部（鑄物砂）・砂部・床土部・コケ緑化事業部]
新潟県柏崎市北斗町4番73号
電話 0257-23-1111（代表）
URL : <https://moss-yamato.com/>
E-mail : kokeryokuka@yamatounsokensetsu.com
[刈羽出張所（常駐者なし）]
新潟県刈羽郡刈羽村大字下高町字北向492-1
電話 0257-45-5220

- ・建設部 [土木部・建築部]
新潟県柏崎市北斗町4番73号
電話 0257-24-6811（代表）

- ・環境部 [産業廃棄物処分場・自動車修理工場]
新潟県柏崎市荒浜一丁目2番41号
電話 0257-24-1661（代表）

- ・長岡営業所 新潟県長岡市片田町字西荒田1001
電話 0258-22-3635

■ 環境管理責任者及び連絡担当者

環境管理責任者：木村 新一

TEL 0257-24-1661 FAX 0257-24-8309

E-mail eco.yamato@zb.wakwak.com

連絡担当者・環境事務局：飯田 秀夫

TEL 0257-23-1111 FAX 0257-24-8301

E-mail kokeryokuka@yamatounsokensetsu.com

■ 事業内容

(適用範囲)

- ・ 土木工事業 ・ 建築工事業 ・ 不動産業
- ・ 産業廃棄物収集運搬業 ・ 産業廃棄物中間処理業 ・ 最終処分業
- ・ 一般廃棄物最終処分業
- ・ 解体工事業 ・ 損害保険代理業
- ・ 自動車修理業 ・ 育苗人工床土販売業
- ・ 鋳物砂販売業 ・ 浜砂販売業
- ・ コケ栽培、コケ緑化システムの販売（屋上、壁面、折半屋根緑化システム施工）

■ 事業規模

創 業	創 業	昭和7年4月
設 立	設 立	昭和30年6月27日
資本金	資本金	5,000万円
従業員数	従業員数	38名
全事業所建物面積	全事業所建物面積	2,171㎡
処分場面積	処分場面積	170,762㎡
売上高	2023年度	1,678百万円
産業廃棄物収集運搬量	2023年度	310.61 トン

■ 事業許可の内容

1. 建設業

許可有効期間	種 類
許可番号	
令和 3年 9月20日から	土木工事業、建築工事業、とび・土木工事業、屋根工事業、 管工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、板金工事業、塗装工事業 防水工事業、内装仕上工事業、解体工事業
令和 8年 9月19日まで	
新潟県知事 許可（特-3）第9102号	

2. 不動産業

	免許有効期間	内 容
	免許証番号	
宅地建物取引業	令和5年6月23日から	宅地又は建物の売買
	令和10年6月22日まで	宅地又は建物の交換
	新潟県知事（15）第884号	宅地又は建物の売買、交換又は貸借の代理
		宅地又は建物の売買、交換又は貸借の媒介

3. 産業廃棄物処理業

・事業の基本計画

産業廃棄物の排出業者の委託を受け、産業廃棄物の収集運搬及び産業廃棄物の中間処理（破碎処理（廃石膏ボードに限る。）・汚泥の脱水処理）及び最終処分（埋立処分）を行う。

産業廃棄物の収集運搬については、運搬車両2台を用いて県内において業を行う。

産業廃棄物収集運搬業及び処分業につきましては、廃棄物処理法を遵守して行う。

許可の区分	許可年月日	事業の範囲
	許可有効期限	
	許可番号	
新潟県 産業廃棄物 収集運搬業	令和4年4月5日	廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を含む。）、紙くず、木くず（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。）、燃え殻、汚泥、ゴムくず、金属くず、鉱さい、ばいじん（以上、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く。） 積替え・保管を除く。
	令和9年3月26日	
	01504048020号	
新潟県 産業廃棄物 処分業	令和4年4月5日	1. 最終処分（埋立処分） 汚泥（無機性のものに限る。）、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を含む。）、燃え殻、ゴムくず、金属くず、鉱さい、ばいじん（以上、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く。） 2. 中間処理 （脱水処理）汚泥（石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く。） （破碎処理）ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（廃石膏ボードに限り、石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を除く。）
	令和9年3月26日	
	01544048020号	

4. 一般廃棄物処理業

許可の区分	許可年月日	事業の範囲
	許可有効期限	
	許可番号	
柏崎市 収集運搬業	令和4年9月12日	収集・運搬
	令和6年10月7日	
	指令環第223号の2	
柏崎市 処分業	令和4年9月12日	最終処分（埋立） 燃え殻、汚泥、紙くず、ばいじん、木くず、がれき類、金属くず、繊維くず、廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	令和6年10月7日	
	指令環第224号の2	

5. その他の許可内容

許可の区分	許可番号	登録年月日	事業の区分
計量証明事業	新潟県知事登録 第98号	平成12年4月25日	質量に係る計量証明の事業

■施設等の状況

1. 産業廃棄物収集運搬業の用に供する全ての施設

運搬車両の種類	台数	運搬品目
吸引車	1	汚泥
ダンプカー	1	廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を含む。）、汚泥、紙くず、木くず（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。）、燃え殻、ゴムくず、金属くず、鋳さい、ばいじん（以上、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く）

2. 2023年度 産業廃棄物収集運搬量

廃棄物の種類 (産業廃棄物)	発生場所	運搬先	運搬量 (トン)
汚泥	新潟市以外の県内	新潟市以外の県内	1.04
廃プラスチック	新潟市以外の県内	新潟市以外の県内	0.48
ガラスくず・コンクリートくず・及び陶磁器くず	新潟市以外の県内	新潟市以外の県内	248.27
紙くず	新潟市以外の県内	新潟市以外の県内	60.82
金属くず	新潟市以外の県内	新潟市以外の県内	0
木くず	新潟市以外の県内	新潟市以外の県内	0
がれき類	新潟市以外の県内	新潟市以外の県内	0

3. 2023年度 産業廃棄物処理量

管理型最終処分場		安定型最終処分場	
廃棄物の種類	処理量 (トン)	廃棄物の種類	処理量 (トン)
汚泥	1,431.13	がれき類	1,458.05
鋳さい	4,516.27	廃プラスチック類	219.74
燃え殻	3,177.92	金属くず	121.81
ガラスくず・コンクリートくず・及び陶磁器くず	3,998.80	ガラスくず・コンクリートくず・及び陶磁器くず	965.21
ばいじん	600.49		
廃プラスチック類	316.56		
金属くず	9.16		
がれき類	930.75		
木くず	44.79		
繊維くず	145.55		
紙くず	73.83		
計	15,245.25	計	2,764.81

4. 2023年度 産業廃棄物中間処理量

廃棄物の種類	年間処理量（トン）	処理の方法	中間処理後の量（トン）	
		（1次処理）		
廃石膏ボード	308.39	破碎	ガラス陶磁器	242.50
			紙くず	60.82
汚泥	22.00	脱水		2.15

5. 産業廃棄物処分量の用に供する施設

・施設の概要

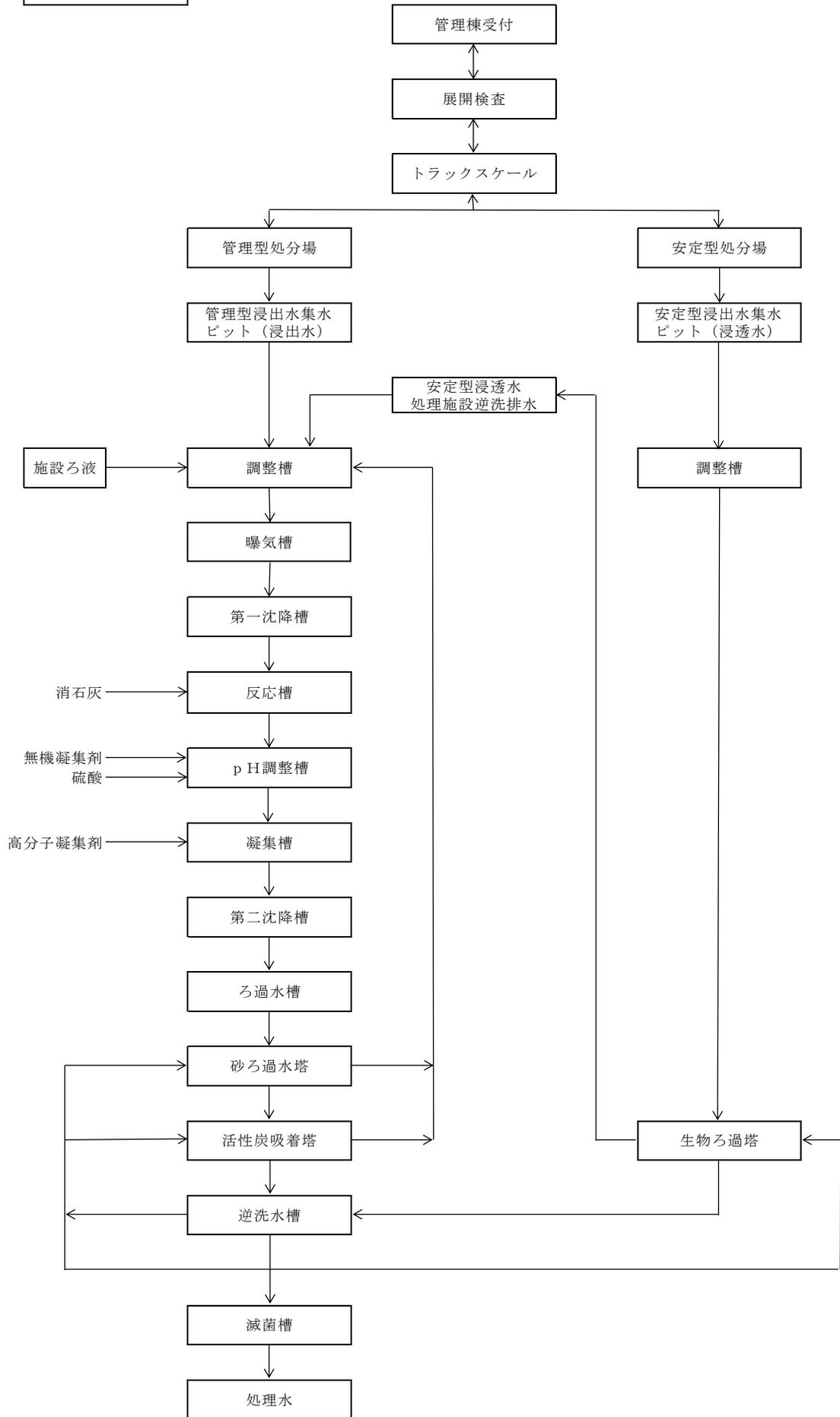
処理施設の種類の種類		埋立処分場（安定型）		
処理する産業廃棄物の種類		廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、ゴムくず		
処理能力	埋立面積	36,248 m ²		
	埋立容量	426,183 m ³		
	残容量	234,619 m ³ （2024年3月31日現在）		
処理方式		安定型最終処分場		

処理施設の種類の種類		埋立処分場（管理型）		
処理する産業廃棄物の種類		汚泥（無機性のものに限る。）、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を含む。）、燃え殻、ゴムくず、金属くず、鉱さい、ばいじん（以上、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く。）		
処理能力	埋立面積	51,324 m ²		
	埋立容量	696,071 m ³		
	残容量	217,649 m ³ （2024年3月31日現在）		
処理方式		管理型最終処分場		
備考		一般廃棄物の最終処分場としても運用している		

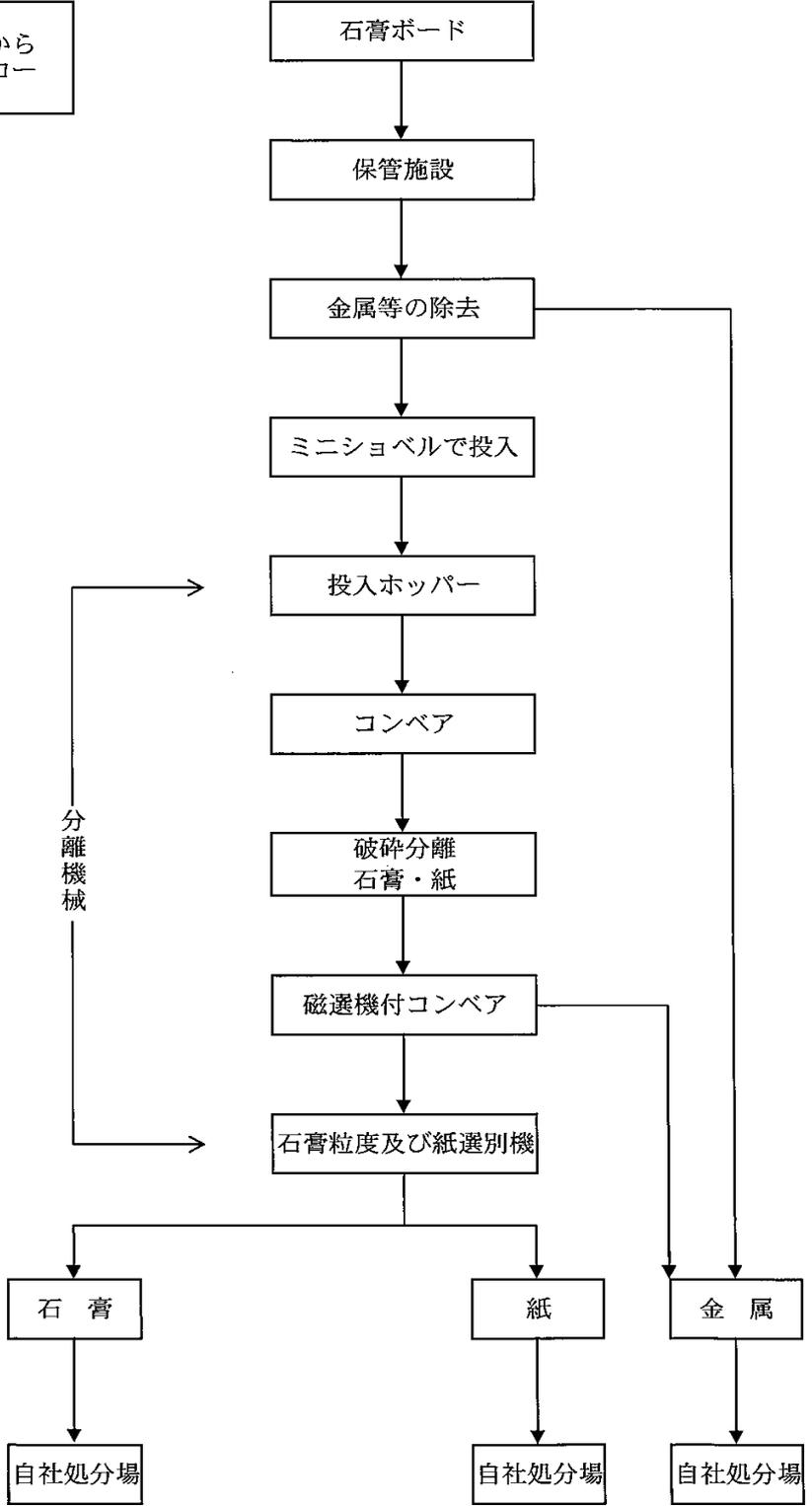
処理施設の種類の種類		廃石膏ボード破碎処理施設		
処理する産業廃棄物の種類		ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（廃石膏ボードに限る。）		
処理能力（規模）		32 t／日（16時間）		
処理方式		破碎分離方式		

処理施設の種類の種類		汚泥脱水処理施設		
処理する産業廃棄物の種類		汚泥		
処理能力（規模）		9.6 m ³ ／日		
処理方式		スクリーンプレス方式		

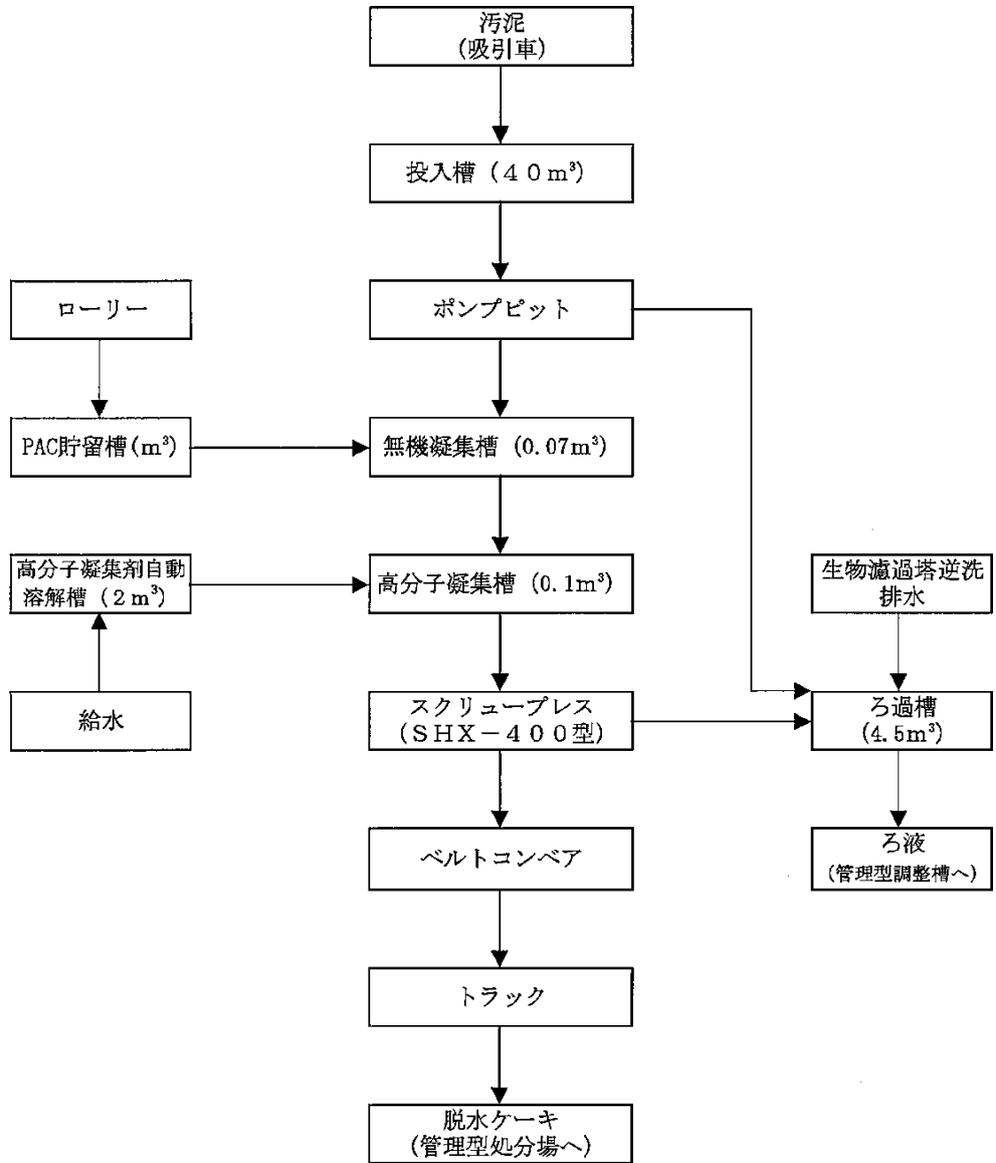
処分場フロー



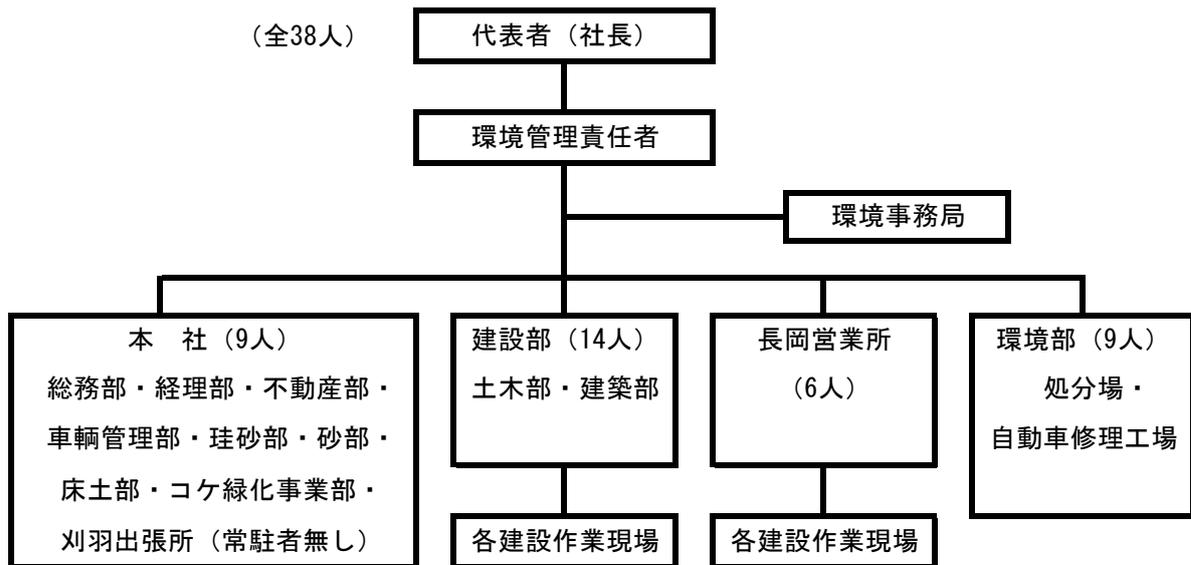
石膏ボードの受入から
分離処理までのフロー



汚泥の受入から
脱水処理までのフロー



②環境経営システム組織図



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人・設備・費用・時間・技能・技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 環境経営目標・環境経営計画書の承認 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 環境経営レポートの承認
環境管理 責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等取りまとめ表の承認 環境経営目標・環境経営計画書の確認 環境経営活動の取り組み結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施、作成
環境 事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 環境経営活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく順守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開 (事務所に備付けと地域事務局への連絡)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門の特定された緊急事態への対応の為の手順書の作成、テスト・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められた事を守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

2. 対象範囲

大和運送建設株式会社の全社・全活動を対象とする。

3. 環境経営方針

環境経営方針

大和運送建設株式会社は、全社を挙げて安全で快適な生活環境を守る為、また、自然環境と調和した循環型社会を構築する為、環境に与える負荷のバランスを認識し、環境経営方針を定め、以下の事項について積極的に環境経営活動を推進します。

行動指針

- 1 事業活動に関する環境関連法規はもとより、その他の要求事項に関しても、それを遵守します。
- 2 環境経営目標を定め、定期的に見直し、継続的改善に努めます。
- 3 温室効果ガス（二酸化炭素等）による環境負荷を低減する為、また、地球環境の保全に寄与する為に次の活動を推進します。
 - (1) 省エネルギー活動として、電気・化石燃料の使用量の削減に努め、二酸化炭素排出量の削減をします。
 - (2) 省資源活動として、水の使用量の削減に努めます。
 - (3) 廃棄物排出量の削減に努めます。
 - (4) 環境に配慮した製品の販売、施工に努めます。
 - (5) 化学物質使用の適正管理に努めます。
- 4 日常業務や社内教育を通じて、環境保全に関する社員の理解と意識の向上に努めます。
- 5 革新的な「技術」「商品」「サービス」をつくり出す力の強化を推進し、環境負荷低減効果のある製品の開発・市場投入を目指します。
- 6 環境経営方針は、全社員に周知し、社外の求めに応じて開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

制定日 2011年 8月 1日
改訂日 2021年12月15日

大和運送建設株式会社

代表取締役 元井秀哲

4. 中期環境経営目標

(本社)

環境項目	単位	基準年実績値	2022年度	基準年実績値	2023年度	基準年実績値	2024年度		
		(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値	(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値	(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値		
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	kwh	47,138 (2021年度)	47,138 (基準年維持)	47,138 (2021年度)	47,138 (基準年維持)	47,138 (2021年度)	47,138 (基準年維持)	
	燃料使用量の削減	ガソリン	ℓ	13,733.76 (2021年度)	13,733.76 (基準年維持)	13,733.76 (2021年度)	13,733.76 (基準年維持)	13,733.76 (2021年度)	13,733.76 (基準年維持)
		軽油	ℓ	1,157.00 (2021年度)	1,157.00 (基準年維持)	1,437.80 (2022年度)	1,437.80 (基準年維持)	1,437.80 (2022年度)	1,437.80 (基準年維持)
		灯油	ℓ	2,341.000 (2021年度)	2,341.000 (基準年維持)	2,341.000 (2021年度)	2,341.000 (基準年維持)	2,341.000 (2021年度)	2,341.000 (基準年維持)
		ガス	m ³	60.90 (2021年度)	60.90 (基準年維持)	60.90 (2021年度)	60.90 (基準年維持)	60.90 (2021年度)	60.90 (基準年維持)
		二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	62,597 (2021年度)	62,597 (基準年維持)	63,321 (2021年度)	63,321 (基準年維持)	63,321 (2021年度)	63,321 (基準年維持)
水使用量の削減	m ³	292.00 (2021年度)	292.00 (基準年維持)	292.00 (2021年度)	292.00 (基準年維持)	292.00 (2021年度)	292.00 (基準年維持)		
一般廃棄物排出量の削減	kg	815.40 (2021年度)	815.40 (基準年維持)	815.40 (2021年度)	815.40 (基準年維持)	815.40 (2021年度)	815.40 (基準年維持)		

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力㈱の調整後排出係数0.457kg-CO₂/kwhを使用しました。

(建設部)

環境項目	単位	基準年実績値	2022年度	基準年実績値	2023年度	基準年実績値	2024年度		
		(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値	(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値	(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値		
二酸化炭素排出量の削減	燃料使用量の削減	電気使用量の削減	kwh	18,720 (2020年度)	18,720 (基準年維持)	12,431 (2022年度実績値)	27,348 (2022年度実績値220%)	27,417 (2023年度)	27,280 (2023年実測値-0.5%)
		ガソリン	ℓ	5,325.50 (2019年度)	5,325.50 (基準年維持)	5,440.60 (2022年度実績値)	11,969.00 (2022年度実績値220%)	6,754.95 (2023年度)	6,721.18 (2023年実測値-0.5%)
		軽油	ℓ	18,000.00 (1,500ℓ/月)	18,000.00 (基準年維持)	18,000.00 (1,500ℓ/月)	21,600.00 (基準年目標値120%)	7,555.00 (2023年度)	7,517.23 (2023年実測値-0.5%)
		灯油	ℓ	1,051.00 (2020年度)	1,051.00 (基準年維持)	1,051.00 (2020年度)	1,560.00 4月～9月基準年維持 10月以降基準年150%	72.000 (2023年度)	71.64 4月～11月2023年実測値 12月以降実測値-0.5%
		ガス	m ³	16.00 (2020年度)	17.60 (2020年度実績値110%)	11.00 (2022年度実績値)	24.20 (2022年度実績値220%)	25.00 (2023年度)	24.88 (2023年実測値-0.5%)
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	50,788 ※1	50,788 ※1	37,167 ※1	82,440 ※1	47,926 (2023年度)	47,686 ※1	
	水使用量の削減	m ³	240.00 (20m ³ /月)	240.00 (基準年維持)	240.00 (20m ³ /月)	528.00 (基準年目標値220%)	180.00 (2023年度)	179.10 (2023年実測値-0.5%)	
	建設廃棄物排出量の削減	%	65%	リサイクル率 65%以上	65%	リサイクル率 65%以上	65%	リサイクル率 65%以上	
	現場における環境配慮型建機の使用率アップ	%	70%	70%以上	70%	70%以上	70%	70%以上	

※1 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力㈱の調整後排出係数0.457kg-CO₂/kwhを使用しました。

※ P R T R制度対象物質に該当する化学物質の購入はないため、目標より除外とします。

建設現場では、SDSにて適正管理します。

※ 2024年度は電気・ガソリン・軽油・灯油・ガス・水の目標の見直しを行い、基準年を2023年度へ変更しました。

(環境部)

環境項目	単位	基準年実績値	2022年度	基準年実績値	2023年度	基準年実績値	2024年度		
		(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値	(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値	(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値		
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 ※1	kwh	425,138 (2020年度)	422,017 (▲0.5%)	425,138 (2020年度)	422,017 (▲0.5%)	425,138 (2020年度)	422,017 (▲0.5%)	
	燃料使用量の削減	ガソリン	ℓ	2,006.04 (2016年度)	1,996.01 (▲0.5%)	1,527.37 (2021年度)	1,519.73 (▲0.5%)	1,213.00 (2023年度)	1,206.94 (▲0.5%)
		軽油	ℓ	32,717.93 (2015年度)	32,554.34 (▲0.5%)	32,717.93 (2015年度)	32,554.34 (▲0.5%)	23,996.16 (2023年度)	23,876.18 (▲0.5%)
		灯油	ℓ	2,010.00 (2017年度)	1,999.95 (▲0.5%)	2,010.00 (2017年度)	1,999.95 (▲0.5%)	1,559.00 (2023年度)	1,551.21 (▲0.5%)
		ガス	m ³	55.40 (2018年度)	55.95 (101%)	42.30 (2021年度)	42.72 (101%)	42.30 (2021年度)	42.72 (101%)
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	305,371 ※3	303,850 ※2	304,179 ※3	302,662 ※2	279,436 ※2	278,043 ※2	
水使用量の削減	m ³	664.00 (2015年度)	662.01 (▲0.3%)	664.00 (2015年度)	662.01 (▲0.3%)	328.00 (2023年度) ※3	327.02 (▲0.3%)		
一般廃棄物排出量の削減	kg	98.60 (2015年度)	97.60 (▲1%)	70.20 (2021年度)	69.50 (▲1%)	54.50 (2023年度)	54.20 (▲1%)		
化学物質使用の適正管理	%	12 (2019年度)	12	12 (2019年度)	12	12 (2019年度)	12		

※1 2019年1月より、一部電力について テプコカスタマーサービス(株)に電力会社変更しました。

※2 二酸化炭素排出係数は、東北電力(株)は実排出係数0.457kg-CO₂/Kwh (2020年度実績)を使用しました。
 テプコカスタマーサービス(株)は排出係数0.495kg-CO₂/Kwh (2020年度実績)を使用しました。

※3 2023年度の基準年実績値は668.00m³ですが、2024年度より修理工場の水の使用料金は、主な使用者である柏崎急送(株)の支払いに変更しました。よって、2023年度の「事務所のみ」の水の使用量328.00m³が基準年実績値となります。

※ 2024年度はガソリン・軽油・灯油・水の目標の見直しを行い、基準年を2023年度へ変更しました。

(長岡営業所)

環境項目	単位	基準年実績値	2022年度	基準年実績値	2023年度	基準年実績値	2024年度		
		(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値	(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値	(基準年) 4月～3月	4月～3月 目標値		
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	kwh	7,081 (2021年度)	7,081 (基準年維持)	5,303 (2022年度)	5,303 (基準年維持)	5,303 (2022年度)	5,277 (▲0.5%)	
	燃料使用量の削減	ガソリン	ℓ	4,223.38 (2021年度)	4,223.38 (基準年維持)	3,765.25 (2022年度)	3,765.25 (基準年維持)	3,765.25 (2022年度)	3,746.42 (▲0.5%)
		軽油	ℓ	66.01 (2021年度)	66.01 (基準年維持)	45.10 (2022年度)	45.10 (基準年維持)	45.10 (2022年度)	44.87 (▲0.5%)
		灯油	ℓ	450.00 (2021年度)	450.00 (基準年維持)	412.00 (2022年度)	412.00 (基準年維持)	412.00 (2022年度)	409.94 (▲0.5%)
		ガス	m ³	—	—	—	—	—	—
		二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	14,325 ※1	14,325 ※1	12,301 ※1	12,301 ※1	12,301 ※1	12,240 ※1
水使用量の削減	m ³	79.00 (2021年度)	79.00 (基準年維持)	46.00 (2022年度)	46.00 (基準年維持)	46.00 (2022年度)	45.77 (▲0.5%)		
一般廃棄物排出量の削減	kg	21.60 (2021年度)	21.60 (基準年維持)	21.40 (2022年度)	21.40 (基準年維持)	21.40 (2022年度)	21.30 (▲0.5%)		
建設廃棄物排出量の削減	%	71.82	リサイクル率 72%以上	49.12	リサイクル率 65%以上	49.12	リサイクル率 65%以上		

※1 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力㈱の調整後排出係数0.457kg-CO₂/Kwhを使用しました。

※ P R T R制度対象物質に該当する化学物質の購入はないため、目標より除外とします。

建設現場では、SDSにて適正管理します。

※ 当初3年間は、基準年を維持するとしていましたが、目標を見直し、2024年度より削減を目標として活動いたします。

5. 環境経営計画

環境項目		活動内容	該当部門	
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・空調管理の徹底（室内温度 夏季28℃、冬季20℃を徹底） ・昼休み、退社時、必要の無い箇所の消灯 ・不使用時、夜間、休日はパソコン・コピー機等のOA機器の主電源を切る ・こまめな空調管理・・・（現場） ・必要最小限の湯沸かし（大型電気ポットの使用中止）・・・（長岡） 	本社 環境部 建設部 長岡営業所	
	燃料使用量の削減	ガソリン・軽油	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの推進（急発進・急加速、アイドリングストップ等） ・効率的な車両運転管理（燃費計算・移動経路等） ・乗り合わせによる移動 ・現場使用の発電機は、低燃費型とする・・・（建設） ・（軽油）作業効率の向上・・・（建設） ・除雪機の作業効率の向上（スムーズな運転技術の向上）・・・（長岡） ・社用車のハイブリッド化を推進・・・（本社） 	本社 環境部 建設部 長岡営業所
		灯油	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーブ使用時の室内温度を20℃に徹底 ・エアコン暖房の併用 	
		ガス	<ul style="list-style-type: none"> ・給湯器、ガスコンロの利用を最小限に心掛ける ・現場で利用がある場合は、最小限に心掛ける・・・（建設） 	
	水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、洗い物等での節水の励行 ・洗車水の節約 ・トイレタンクの流水量の調節・・・（長岡） 	本社 環境部 建設部 長岡営業所	
	一般廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別を徹底する ・使い捨て製品等の購入や使用を極力控える ・不要書類などのリサイクルの徹底 	本社 環境部 建設部 長岡営業所	
	建設廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・管理票による適正処理と分別の徹底 ・現場での業者による分別指導を必要回数行う ・リサイクルの推進 	建設部 長岡営業所	
現場における環境配慮型建機の使用率アップ	<ul style="list-style-type: none"> ・排出ガス対策型の建設機械の優先使用 ・低騒音型の建設機械の優先使用 	建設部		
化学物質使用の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・毒物・劇物の適正管理 ・毎月の使用量と在庫の確認 	環境部		

6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

6-1 (本社) 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価

環境項目	環境経営目標	単位	基準値	2023年度 目標値	2023年度 実績値		2023年度 環境経営活動評価	
			4~3月	4~3月	4~3月	目標値 比較	判定	コメント
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	kwh	47,138 (2021年度)	47,138	37,224	21.0% 減	○	電気使用量に係る環境経営目標は、基準年実績値を維持の47,138kwh以下としました。実績は37,224kwhで目標を達成できました。2022年度に本社事務所の照明をLEDに交換したため、年間を通して目標を達成できました。今後も目標値を達成できるよう、引き続き努めてまいります。
	(ガソリン) 基準年実績値を維持する	ℓ	13,733.76 (2021年度)	13,733.76	9,804.03	28.6% 減	○	ガソリン使用量に係る環境経営目標は、基準年実績値を維持の13,733.76ℓ以下としました。実績は9,804.03ℓで目標を達成できました。社用車を2台ハイブリット車に入れ替えたこともあり、年間を通して目標を達成できました。今後も目標を達成できるよう、引き続き努めてまいります。
	(軽油) 基準年実績値を維持する	ℓ	1,437.80 (2022年度)	1,437.80	1,212.00	15.7% 減	○	軽油使用量に係る環境経営目標は、基準年実績値を維持の1,437.80ℓ以下としました。実績は1,212.00ℓで目標を達成できました。給油のタイミング等で目標を達成できない月もありましたが、年間累計では、目標を達成できました。今後も目標を達成できるよう、引き続き努めてまいります。
	(灯油) 基準年実績値を維持する	ℓ	2,341.00 (2021年度)	2,341.00	1,462.00	37.5% 減	○	灯油使用量に係る環境経営目標は、基準年実績値を維持の2,341.00ℓ以下としました。実績は1,462.00ℓで目標を達成できました。冬場の暖房をストーブとエアコンを効率的に併用することにより、目標を達成できました。今後も目標を達成できるよう、引き続き努めてまいります。
	(ガス) 基準年実績値を維持する	m ³	60.90 (2021年度)	60.90	53.90	11.5% 減	○	ガス使用量に係る環境経営目標は、基準年実績値を維持の60.90m ³ 以下としました。実績は53.90m ³ で目標を達成できました。僅かながら目標を達成できない月もありましたが、年間累計では、目標を達成できました。今後も目標を達成できるよう、引き続き努めてまいります。
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	63,321	63,321	46,859	26.0% 減	○	二酸化炭素排出量に係る環境経営目標は、電気・燃料の個別の目標より換算し63,321kg-CO ₂ 以下としました。実績は46,859kg-CO ₂ で目標を達成できました。電気・燃料の個別の目標が、それぞれ達成できていたので、結果として二酸化炭素排出量も年間を通して目標を達成できました。

6-1 (本社) 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価

環境項目	環境経営目標	単位	基準値	2023年度 目標値	2023年度 実績値		2023年度 環境経営活動評価	
			4~3月	4~3月	4~3月	目標値 比較	判定	コメント
水使用量の削減	基準年実績値を維持する	m ³	292.0 (2021年度)	292.0	254.0	13.0% 減	○	水使用量に係る環境経営目標は、基準年実績値を維持の292.0以下としました。実績は254.0で目標を達成できました。僅かながら目標を達成できない月もありましたが、年間累計では目標を達成できました。今後も目標を達成できるよう、引き続き努めてまいります。
一般廃棄物 排出量の削減	基準年実績値を維持する	kg	815.40 (2021年度)	815.40	592.40	27.3% 減	○	一般廃棄物排出量に係る環境経営目標は、基準年実績値を維持の815.40kg以下としました。実績は592.40kgで目標を達成できました。今後も目標達成できるよう、引き続き全社員に達成手段の遂行を周知徹底に努めてまいります。

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力(株)の調整排出係数0.457kg-CO2/Kwhを使用しました。

6-2（本社）次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境項目	環境経営目標	達成手段	単位	基準値 (基準年)	目標値 (2024年度)	
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 空調管理の徹底 (室内温度 夏季28℃、冬季20℃を徹底) 昼休み、退社時、必要の無い箇所の消灯 不使用時、夜間、休日はパソコン・コピー機等の ○A機器の主電源を切る 	kwh	(100%) 47,138 (2021年度)	(100%) 47,138	
	燃料使用量の削減	(ガソリン) 基準年実績値を維持する	<ul style="list-style-type: none"> エコドライブの推進 (急発進・急加速、アイドリングストップ等) 効率的な車両運転管理(燃費計算・移動経路等) 	ℓ	(100%) 13,733.76 (2021年度)	(100%) 13,733.76
		(軽油) 基準年実績値を維持する	<ul style="list-style-type: none"> 乗り合わせによる移動 社用車のハイブリッド化を推進 	ℓ	(100%) 1,437.80 (2022年度)	(100%) 1,437.80
		(灯油) 基準年実績値を維持する	<ul style="list-style-type: none"> ストーブ使用時の室内温度を20℃に徹底 エアコン暖房の併用 	ℓ	(100%) 2,341.00 (2021年度)	(100%) 2,341.00
		(ガス) 基準年実績値を維持する	<ul style="list-style-type: none"> 給湯器、ガスコンロの利用を最小限に心掛ける 	m ³	(100%) 60.90 (2021年度)	(100%) 60.90
	二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	(100%) 63,321	(100%) 63,321
	水使用量の削減	基準年実績値を維持する	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、洗い物等での節水の励行 洗車用水の節約 	m ³	(100%) 292.00 (2021年度)	(100%) 292.00
	一般廃棄物排出量の削減	基準年実績値を維持する	<ul style="list-style-type: none"> ごみの分別を徹底 使い捨て製品等の購入や使用を極力控える 不要書類などのリサイクルの徹底 	kg	(100%) 815.40 (2021年度)	(100%) 815.40

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力(株)の調整後排出係数0.457kg-CO₂/Kwhを使用しました。

6-1（建設部） 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価

環境項目	環境経営目標	単位	基準値	2023年度 目標値	2023年度 実績値		2023年度 環境経営活動評価	
			4～3月	4～3月	4～3月	目標値 比較	判定	コメント
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 基準年実績値220%増とする	kwh	12,431 (2022年度)	27,348	27,417	0.3%増	×	今年度は工事受注の増加が予想された為、基準年実績値を220%増とし目標値を設定しましたが、市発注の学校関係の改修工事で年度末に市より電気使用量の請求が一括で来た為、目標値を少し超えてしまいました。今後は施工方法などを検討して電気使用量の削減に努めていきます。
	(ガソリン) 基準年実績値220%増とする	ℓ	5440.6 (2022年度)	11,968.80	6,754.95	43.6%減	○	今年度は工事受注の増加が予想された為、基準年実績値を220%増とし目標値を設定しました。目標値の46.3%減となりました。各個人が現場移動時のエコドライブを意識した為と思われます。今後も目標達成に努めていきます。
	(軽油) 基準年実績値120%増とする	ℓ	18,000.00 (2022年度)	21,600.00	7,555.00	65.0%減	○	今年度も河川改修工事を受注し基準年実績値120%増と目標値を設定いたしました。現場で施工方法を検討し、水量の変化に応じ発電機の稼働時間の調整をした結果目標値65%減となりました。今後も目標達成に努めていきます。
	(灯油) 4月～9月基準年実績値を維持する 10月以降基準年実績値150%増とする	ℓ	1,051.00 (2022年度)	1,560.00	72.00	95.4%減	○	使用量が年間を通じて10月～3月で使用頻度が多い為、10月以降の目標値を150%増と設定いたしました。現場事務所を離れる時ストーブの電源をオフにするなど心掛けた結果95.4%減となりました。今後も目標達成に努めていきます。
	(LP・都市ガス) 基準年実績値220%増とする	m ³	11.00 (2022年度)	24.20	25.00	3.3%増	×	今年度は工事受注の増加が予想された為、基準年実績値220%増と設定いたしましたが、建築工事で市発注の学校関係の改修工事で年度末に市より都市ガスの使用量の請求が一括で来た為、目標値を超えてしまいました。今後は施工補法など検討して使用量の削減に努めていきます。
二酸化炭素排出量 基準年実績値220%増とする	kg-CO ₂	37,167 (2022年度)	82,440	47,926	41.9%減	○	今年度は工事受注の増加が予想された為、基準年実績値220%増と目標値を設定致しました。ガソリン・軽油・灯油などの使用量が減少した為、年間を通じて二酸化炭素排出量も目標値より41%減となりました。今後も目標達成に努めていきます。	

6-1（建設部） 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価

環境項目	環境経営目標	単位	基準値	2023年度 目標値	2023年度 実績値		2023年度 環境経営活動評価	
			4～3月	4～3月	4～3月	目標値 比較	判定	コメント
水使用量の削減	基準年実績値220%増とする	m ³	240.0 (2022年度)	528.0	180.0	65.9% 減	○	今年度は工事受注の増加が予想された為、基準値220%増とし目標値を設定いたしました。市発注の学校関係の改修工事で年度末に一括で使用量の請求がありました。目標値内に抑えることができました。今後も目標達成に引き続き努めていきます。
建設廃棄物 排出量の削減	リサイクル率を65%以上 維持する	%	65.00	65.00	41.40	目標値 -23.6%	×	建設部の工事で廃プラスチック類・陶磁器くず・倒木・枝木などが多くリサイクル率が目標に達成できませんでした。各現場でリサイクル率のアップの工夫を検討したいです。
現場における 環境配慮型建機 の使用率アップ	環境配慮型の使用率を70% 以上にする	%	70.0	70.0	89.5	目標値 +19.50%	○	各現場で使用する建設機械は、現場代理人の配慮により環境配慮型の建設機械の使用率の向上が認められます。今後も目標達成に努めていきます。

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力㈱の調整排出係数0.457kg-CO2/Kwhを使用しました。

6-2（建設部）次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境項目	環境経営目標	達成手段	単位	基準値 (基準年)	目標値 (2024年度)	
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 2023年度実績値-0.5%とする	・空調管理の徹底 (室内温度 夏季28℃、冬季20℃を徹底) ・現場事務所を離れる時は必ず照明とエアコンのスイッチを切ること	kwh	(100%) 27,417 (2023年度)	(99.5%) 27,280	
	燃料使用量の削減	(ガソリン) 2023年度実績値-0.5%とする	・エコドライブの推進 (急発進・急加速、アイドリングストップ等) ・効率的な車両運転管理(燃費計算・移動経路等)	ℓ	(100%) 6,754.95 (2023年度)	(99.5%) 6,721.18
		(軽油) 2023年度実績値-0.5%とする	・発電機の効率の良い稼働時間を検討する ・低燃費型の建設機械の選定	ℓ	(100%) 7,555.00 (2023年度)	(99.5%) 7,517.23
		(灯油) 4月～11月は2023年実績値とする 12月以降は実績値-0.5%とする	・ストーブ使用時の室内温度を20℃に徹底 ・エアコン暖房の併用 ・現場事務所を離れる時は電源を切る	ℓ	(100%) 72.00 (2023年度)	(99.5%) 71.64
		(都市ガス) 2023年度実績値-0.5%とする	・給湯器、ガスコンロの利用を最小限に心掛ける	m ³	(100%) 25.00 (2023年度)	(99.5%) 24.88
	二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	47,926 (2023年度)	47,686
	水使用量の削減 2023年度実績値-0.5%とする	・手洗い、洗い物等での節水の励行 ・作業終了時蛇口の締め忘れを確認する	m ³	(100%) 180.00 (2023年度)	(99.5%) 179.10	
	建設廃棄物排出量の削減 建設廃棄物のリサイクル率を65%以上にする	・ごみの分別を下請業者に指導する ・資源ごみの持ち帰りを指導する	%	65%	65%以上	
	現場における環境配慮型建機の使用率アップ 環境配慮型建機の使用率を70%以上にする	・低燃費・低騒音型の建設機械の優先使用 ・排出ガス対策の方の建設機械の優先使用	%	70%	70%以上	

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力(株)の調整後排出係数0.457kg-CO₂/Kwhを使用しました。

※ P R T R制度対象物質に該当する化学物質の購入はないため、目標より除外とします。

建設現場では、SDSにて適正管理します。

6-1 (環境部) 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価

環境項目	環境経営目標	単位	基準値	2023年度 目標値	2023年度 実績値		2023年度 環境経営活動評価	
			4~3月	4~3月	4~3月	目標値 比較	判定	コメント
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	kwh	425,138 (2022年度)	422,017	419,817	0.5%減	○	電気使用量に関して、目標値422,017kwhに対して実績値419,817kwhと僅か0.5%ではありますが減で目標達成しました。 2023年の12月に事務所の照明を全てLEDに交換しました。処分場の使用電力に比べると大きく差がありますが、まずは減らせる所から減らしていくという心構えが大事だと思います。
	(ガソリン) ガソリン使用量を年0.5%削減する	ℓ	1,527.37 (2021年度)	1,519.73	1,213.00	20.2%減	○	ガソリン使用量に関して、目標値1,519.73ℓに対して実績値1,213.00ℓと20.2%減で目標達成しました。 今年度より目標値を変更したのですが、まだ目標値が大きい可能性があるため、次年度は目標年度を2023年度に変更しようと思います。
	(軽油) 軽油使用量を年0.5%削減する	ℓ	32,717.93 (2015年度)	32,554.34	23,996.16	26.3%減	○	軽油使用量に関して、目標値32,554.34ℓに対して実績値23,996.16ℓと26.3%減で目標達成しました。 削減率が昨年度の25.4%減を上回ったため、次年度の目標年度を2023年度に変更しようと思います。
	(灯油) 灯油使用量を年0.5%削減する	ℓ	2,010.00 (2017年度)	1,999.95	1,559.00	22.0%減	○	灯油使用量に関して、目標値1,999.95ℓに対して実績値1,559.00ℓと22.0%減で目標達成しました。 昨年度の10.9%より大幅に削減できたため、次年度の目標年度を2023年度に変更いたします。
	(ガス) ガス使用量を基準年の1%増までを維持する	m³	42.30 (2021年度)	42.72	36.40	14.8%減	○	ガス使用量に関して、目標値42.72m³に対して実績値36.40m³と14.8%減で目標達成しました。 冬季間に大幅に目標値をオーバーする月もあったため、次年度は冬季間のガス機器の使用状況に注視していきたいと思っています。
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	304,179	302,662	276,198	8.7%減	○	二酸化炭素の排出量に関して、目標値302,662kg-CO2に対して実績値277,267kg-CO2と8.7%減で目標達成しました。 電気・燃料使用量が累計で目標達成しているため、こちらも目標達成出来ました。 次年度は10%減を目指していきたいと思っています。

6-1 (環境部) 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価

環境項目	環境経営目標	単位	基準値	2023年度 目標値	2023年度 実績値		2023年度 環境経営活動評価	
			4~3月	4~3月	4~3月	目標値 比較	判定	コメント
水使用量の削減	水使用量を年0.3%削減する	m ³	664.00 (2015年度)	662.01	688.00	3.9%増	×	水使用量に関して、目標値662.01m ³ に対して実績値688.00m ³ と3.9%増で目標達成出来ませんでした。 この結果を受けて、修理工場の水の使用要因を見直し、洗車を主に行っている柏崎急送へ修理工場の水道料金を支払ってもらうよう話をし、双方納得の上で了承してもらいました。 次年度より事務所での水の使用量のみが対象になる為、目標値を適正に見直します。
一般廃棄物 排出量の削減	一般廃棄物(事務所可燃ごみ)を年1%削減する	kg	70.20 (2021年度)	69.40	54.50	21.5% 減	○	一般廃棄物排出量に関して、目標値69.40kgに対して実績値54.50kgと21.5%減で目標達成しました。 大きく削減出来たので、次年度は目標年度を2023年度に変更いたします。
化学物質使用の適 正管理	毒物・劇物の適正管理と 在庫管理	回	12 (2019年度)	12	12	目標値 同	○	化学物質使用の適正管理は毎月1回使用量と在庫の確認を行いました。

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力(株)の調整後排出係数0.457kg-CO₂/Kwhを使用しました。
 テプコカスタマーサービス(株)より購入分は、2020年度実排出係数0.495kg-CO₂/Kwhを使用しました。

6-2（環境部）次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境項目	環境経営目標	達成手段	単位	基準値 (基準年)	目標値 (2024年度)	
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・空調管理の徹底 (室内温度 夏季28℃、冬季20℃を徹底) ・昼休み、退社時、必要の無い箇所の消灯 ・不使用時、夜間、休日はパソコン・コピー機等の ○A機器の主電源を切る ・処分場の機械類の定期点検（空運転・負荷運転の 防止） ・浸出水ポンプの点検表の記載 ・浸出水ポンプの効率の良い運転（貯水量に合わせて 自動運転から手動運転に切り替える） ・浸出水ポンプ稼働表の記載 ・埋立した廃棄物を好気性に保ち、浸出水の水質 レベルを向上させ、水処理電力使用量を削減 	kwh	(100%) 425,138 (2020年度)	(99.5%) 423,012	
	燃料使用量の削減	(ガソリン) ガソリン使用量を年0.5% 削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの推進 (急発進・急加速、アイドリングストップ等) ・効率的な車両運転管理（燃費計算・移動経路等） ・乗り合わせによる移動 	ℓ	(100%) 1,213.00 (2023年度)	(99.5%) 1,206.94
		(軽油) 軽油使用量を年0.5% 削減する 使用状況の見直しと共に効率的な 運転に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの推進 (急発進・急加速、アイドリングストップ等) ・効率的な車両運転管理（燃費計算・移動経路等） ・軽油の燃費をグラフ化し、毎月オペレーターとミ ーティングを開き、反省点の洗い出しと翌月の指 針を決める 	ℓ	(100%) 23,996.16 (2023年度)	(99.5%) 23,876.18
		(灯油) 灯油使用量を年0.5% 削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーブ使用時の室内温度を20℃に徹底 ・エアコン暖房の併用 ・定期的にフィルター掃除を行い、効率の良い燃焼 を促す 	ℓ	(100%) 1,559.00 (2023年度)	(99.5%) 1,551.21
		(ガス) ガス使用量を基準年の 1%増までを維持する	<ul style="list-style-type: none"> ・給湯器、ガスコンロの利用を最小限に心掛ける 	m ³	(100%) 42.30 (2021年度)	(101%) 42.72
	二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	279,436	278,043

環境項目	環境経営目標	達成手段	単位	基準年	計画年 (2024年度)
水使用量の削減	水使用量を年0.3%削減する ※今年度より修理工場の水道 使用量は柏崎急送が支払い 事務所の水道使用量のみを計 測	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、洗い物等での節水の励行 ・洗車用水の節約 ・水道メーターをこまめに点検し、水道管からの水漏れがないか確認する 	m ³	(100%) 328.00 (2023年度)	(99.7%) 327.02
一般廃棄物 排出量の削減	一般廃棄物（事務所可燃 ごみ）を年1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別を徹底 ・使い捨て製品等の購入や使用を極力控える ・不要書類などのリサイクルの徹底 	kg	(100%) 54.5 (2023年度)	(99%) 54.2
化学物質使用の適 正管理	毒物・劇物の適正管理と 在庫管理	<ul style="list-style-type: none"> ・毒物・劇物の適正管理 ・毎月の使用量と在庫の確認 	回	12 (2019年度)	12

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力(株)の調整後排出係数0.457kg-CO₂/Kwhを使用しました。
テプコカスタマーサービス(株)より購入分は、2020年度実排出係数0.495kg-CO₂/Kwhを使用しました。

6-1（長岡営業所） 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価

環境項目	環境経営目標	単位	基準値	2023年度 目標値	2023年度 実績値		2023年度 環境経営活動評価	
			4～3月	4～3月	4～3月	目標値 比較	判定	コメント
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 電気使用量を 基準年の実績値を維持する	kwh	5,303 (2022年度)	5,303	5,145	3.0%減	○	電気使用量に係る環境経営目標は、基準年の5,303kwhを維持するとしました。実績は5,145kwhで目標を達成することができました。現場での使用量の減少（売上げの減少）と、自動販売機の撤去により削減ができました。
	(ガソリン) ガソリン使用量を 基準年の実績値を維持する	ℓ	3,765.25 (2022年度)	3,765.25	2,595.90	31.1% 減	○	ガソリン使用量に係る環境経営目標は、基準年の3,765.25ℓを維持するとしました。実績は2,595.90ℓで目標を達成することができました。従業員の減少と、市外現場への移動距離の減少、また、エコカーの使用により大幅に削減しました。
	(軽油) 軽油使用量を 基準年の実績値を維持する	ℓ	45.10 (2022年度)	45.10	19.60	56.5% 減	○	軽油使用量に係る環境経営目標は、基準年の45.10ℓを維持するとしました。実績は19.60ℓで目標を達成することができました。まれにみる小雪により除雪回数が減少し、使用量が大幅に削減しました。
	(灯油) 灯油使用量を 基準年の実績値を維持する	ℓ	412.00 (2022年度)	412.00	456.00	10.7% 増	×	灯油使用量に係る環境経営目標は、基準年の412.00ℓを維持するとしました。実績は456.00ℓで目標を達成することができませんでした。3月に例年より気温の低い日が続き、ストーブの使用時間が増え、灯油の使用量が増えました。
	(ガス) ガス使用量を 基準年の実績値を維持する	m ³	—	—	—	—	—	使用がありませんでした。
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	12,301	12,301	9,560	22.3% 減	○	二酸化炭素排出量に係る環境経営目標は電気・燃料の個別の目標より換算し、12,301kg-CO ₂ 以下としました。実績は9,560kg-CO ₂ で目標を達成することができました。燃料（ガソリン・軽油）の削減が大きく作用していました。

6-1（長岡営業所） 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価

環境項目	環境経営目標	単位	基準値	2023年度 目標値	2023年度 実績値		2023年度 環境経営活動評価	
			4～3月	4～3月	4～3月	目標値 比較	判定	コメント
水使用量の削減	水使用量を 基準年の実績値を維持する	m ³	46.00 (2022年度)	46.00	31.00	32.6% 減	○	水使用量に係る環境経営目標は、基準年実績 46.00ℓを維持するとしました。実績は31.00ℓで 目標を達成することができました。 現場での使用量の減少（売上の減少）が大きな 要因です。
一般廃棄物 排出量の削減	一般廃棄物 (事務所可燃ごみ)を 基準年の実績値を維持する	kg	21.40 (2022年度)	21.40	21.60	0.9%増	×	一般廃棄物排出量に係る環境経営目標は基準年 の21.40kgを維持するとしました。実績は21.60 kgで目標を達成することができませんでした。 従業員の増加により、若干の増加となりまし た。
建設廃棄物 排出量の削減	リサイクル率を65%以上 維持する	%	65.00 (2022年度)	65.00	98.37	目標値 +33.37%	○	建設廃棄物排出量に係る環境経営目標はリサイ クル率65%以上を維持するとしました。実績 は98.37%で目標を達成することができまし た。 再生可能なアスコン殻などが多かったため、リ サイクル率が高くなりました。

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力(株)の調整排出係数0.457kg-CO2/Kwhを使用しました。

6-2（長岡営業所）次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境項目	環境経営目標	達成手段	単位	基準値 (基準年)	目標値 (2024年度)	
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・空調管理の徹底 (室内温度 夏季28℃、冬季20℃を徹底) ・始業時刻前や休憩時間の消灯（必要2箇所以外） ・不使用時、夜間、休日はOA機器の主電源を切る ・エアコンのフィルターは清掃をこまめに行い、運転効率を上げる ・ブラインドで日差しを防御する 	kwh	(100%) 5,303	(99.5%) 5,277	
	燃料使用量の削減	(ガソリン) ガソリン使用量を年0.5%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの推進 (急発進・急加速、アイドリングストップ等) ・効率的な車両運転管理（燃費計算・移動経路等） ・乗り合わせによる移動 	ℓ	(100%) 3,765.25	(99.5%) 3,746.42
		(軽油) 軽油使用量を年0.5%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪機の作業効率の向上 (スムーズな運転技術の向上) 	ℓ	(100%) 45.10	(99.5%) 44.87
		(灯油) 灯油使用量を年0.5%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・暖房時の室内温度を20℃に徹底 ・エアコン暖房の併用 ・フィルター清掃をこまめに行い、燃焼効率を上げる 	ℓ	(100%) 412.00	(99.5%) 409.94
		(ガス) 基準年実績値を維持する		m ³	—	—
二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	12,301	12,240	
水使用量の削減	水の使用量を年0.5%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、洗い物等での節水の励行 ・トイレタンクの流水量の調節 	m ³	(100%) 46.00	(99.5%) 45.77	
一般廃棄物排出量の削減	(事務所可燃ごみ) 一般廃棄物排出量を年0.5%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別を徹底 ・使い捨て製品等の購入や使用を極力控える ・不要書類などのリサイクルの徹底 	kg	(100%) 21.40	(99.5%) 21.30	
建設廃棄物排出量の削減	建設廃棄物のリサイクル率を65%以上にする	<ul style="list-style-type: none"> ・管理票による適正処理と分別の徹底 ・現場での業者による分別指導を必要回数行う ・リサイクルの推進 	%	49.12	リサイクル率 65%以上	

※ 二酸化炭素排出係数は、2020年度の東北電力(株)の調整後排出係数0.457kg-CO₂/Kwhを使用しました。

※ P R T R制度対象物質に該当する化学物質の購入はないため、目標より除外とします。

建設現場では、SDSにて適正管理します。

7-1（本社） 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	要求事項 / 規制内容 / 手続き事項	確認者	遵守評価
消防法	・ 消防用設備等の点検	大久保	○
グリーン購入法	・ グリーン調達への対応（出来る限り環境物品の選択に努める）	権頭	○
家電リサイクル法	・ 特定家電を廃棄の際は適正ルートで廃棄する ・ 必要な費用を負担する	飯田	○
小型家電リサイクル法	・ 使用済小型電子機器等を分別して排出する ・ 使用済み小型電子機器等の収集若しくは運搬又は再資源化を適正に実施し得る者に引き渡す	飯田	○
自動車リサイクル法	・ 社用車の長期使用の促進 ・ 引取業者への引渡し ・ 再資源化預託金の預託義務	米山	○
下水道法	・ 排水設備の設置 ・ 水洗便所への改造	大久保	○
柏崎市火災予防条例	・ 少量危険物の貯蔵、取扱いの基準 ・ 少量危険物の保管の届出（200ℓ以上が対象）	大久保	○
フロン排出抑制法	・ 機器の適切な設置、適正な使用環境の維持、確保 ・ 機器の定期的な点検 ・ フロン類漏えい時の対処 ・ 機器の整備の記録・保存	安達	○

7-2（本社） 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、環境関連法規等への違反はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

7-1（建設部） 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	要求事項 / 規制内容 / 手続き事項	適用場所		確認者	遵守評価
		土木	建築		
建築基準法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の設計及び工事監理 ・ 建築物の建築等に関する申請及び確認 		○	安達	○
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石綿等の除去 労働基準監督署へ届出 レベル1…工事計画書（14日前まで） レベル2…建築解体等作業届（作業前） 		○	安達	○
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委託先の許可の確認（収集運搬及び処理） ・ 委託先との契約締結の確認 ・ 契約書の5年間保存 ・ マニフェストの交付、回収、照合 ・ A・B2・D・E票の5年間保存 ・ 各関係役所への報告（新潟県、新潟市） 	○		小泉	○
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築工事に伴う指定副産物の発生抑制と、再利用、再生利用、再資源化に努める ・ 現場に於ける細分別（分別箱の設置）の指導と確認 	○		小泉	○
建設リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分別解体、再資源化の促進 ・ 再生資源の利用 	○		小泉	○
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正家電業者に料金を支払い引き渡す 又、その際領収書を引取る 		○	安達	○
オフロード法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力会社の持込機械等 ・ 適合証明 平成26年1月施工前販売証明 		○	安達	○
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解体前に設置有無を確認 ・ 有の場合、各書類届出 		○	安達	○
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定建設作業の届出（開始7日前） ・ 作業敷地境界において85デシベル以下 	○		小泉	○
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定建設作業の届出（開始7日前） ・ 作業敷地境界において75デシベル以下 	○		小泉	○
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少量危険物の取扱（ガソリン200ℓ、灯油軽油等1000ℓ） ・ 消防用設備の設置と点検 		○	安達	○
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共水域への排出及び地下水への浸透防止の策定 		○	安達	○
建設工事公衆災害防止対策要綱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付近住民等への周知 ・ 粉塵対策、騒音防止の措置 	○		小泉	○

7-1（建設部） 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	要求事項 / 規制内容 / 手続き事項	適用場所		確認者	遵守評価
		土木	建築		
大気汚染防止法 ／特定粉じん排出作業	<ul style="list-style-type: none"> 解体工事における石綿含有事前調査（対象全て） 県及び労働基準監督署へ報告（石綿事前調査報告システム） （床面積80㎡以上・請負代金100万以上） 発注者へ書面で説明（3年間保存） 調査結果等の現場への掲示 特定粉じん排出等作業届書の県への提出 （レベル1・レベル2…14日前まで） 		○	安達	○
新潟県産業廃棄物等の 適正な処理の促進に関 する条例	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の適正処理、適正保管、委託業者の処理能力の確認、 排出量の届出 	○	○	建築：安達 土木：小泉	○
学校環境衛生の基準	<ul style="list-style-type: none"> 測定項目 [必須] ホルムアルデヒド、トルエン [任意] キシレン、パラジクロロベンゼン、 エチルベンゼン、スチレン 		○	安達	○
公共工事発注仕様書 (特記仕様書)	<ul style="list-style-type: none"> 騒音、振動、粉じん、排水対策 グリーン調達、建設副産物 指定建設機械の使用状況 	○		小泉	○

7-2（建設部） 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、環境関連法規等への違反はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

7-1（環境部） 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	要求事項 / 規制内容 / 手続き事項	確認者	遵守評価
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 ・事故時の応急措置、届出 	木村	○
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制地域外のため該当なし 	木村	-
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制地域外のため該当なし 	木村	-
悪臭防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 	木村	○
新潟県生活環境保全条例	<ul style="list-style-type: none"> ・第6章 騒音及び振動に関する規制 第1節「特定工場等の騒音及び振動に関する規制」の遵守 ・第7章 悪臭の防止への配慮 第109条（県民は、日常生活に伴って発生する悪臭により周辺の生活環境を損なうことのないよう配慮しなければならない。）の遵守 	木村	○
大気汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・該当なし 	木村	-
土壌汚染対策法	<ul style="list-style-type: none"> ・該当なし 	木村	-
ダイオキシン類対策特別措置法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 	木村	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・業及び許可施設の許可申請 ・処理困難通知 ・変更届出等の届出 ・名義貸しの禁止 ・処理施設の構造基準の遵守 ・処理施設の維持管理基準の遵守 ・運搬基準の遵守 ・産業廃棄物管理票の交付・送付・保管 ・帳簿の作成 ・産業廃棄物管理票交付状況報告書の提出 ・虚偽記載の禁止 ・再委託の禁止 ・委託基準の遵守 ・保管基準の遵守 ・処理基準の遵守 ・処理施設の維持管理に関する計画及び維持管理状況の公表 	木村	○

7-1（環境部） 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	要求事項 / 規制内容 / 手続き事項	確認者	遵守評価
新潟県産業廃棄物処理施設の維持管理に関する指導要綱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造に関する基準 ①中間処理施設共通基準 ②中間処理施設個別基準 ③最終処分場共通基準（困い等、表示等、地滑り防止工、沈下防止工、地下水の水質監視用井戸、第一帯水層にストレーナーが設けられている、覆土用砂の保管設備、消火設備、計測設備、管理事務所） ④調整池及び浸出液処理設備 ⑤ガス抜き設備 ⑥浸透水集排水設備 ⑦浸透水処理設備 ⑧浸透水の採取設備 ・ 維持管理に関する基準 ①中間処理施設共通基準（困い等、表示等、能力に見合った処理、異常事態の対応、定期的な点検・機能検査、飛散・流出及び悪臭の防止、害虫等の発生防止、騒音及び振動の防止、粉じんの発生防止、放流水の検査、搬入時の産業廃棄物の確認、中間処理後の産業廃棄物の確認、防火、管理事務所、管理体制、記録及び保存） ②最終処分場共通基準（困い等、表示等、飛散及び流出防止、悪臭の防止、防火、害虫等の発生防止、騒音・振動及び粉じんの防止、搬入時の産業廃棄物の確認、作業時間、事故防止、管理事務所、管理体制、記録及び保存） ③管理型最終処分場個別基準（滞留水の排除、遮水工の覆い、遮水工の管理、地下水の水質検査、地下水の水質悪化時の措置、雨水流入防止、調整池の点検、浸出液処理設備、通気装置、開口部の閉鎖、覆い損壊の防止、廃止の技術上の基準） ④安定型最終処分場の個別基準（擁壁等の保全、展開検査、地下水の検査、地下水の水質悪化時の措置、浸透水の水質検査、浸出液処理設備、開渠等、覆いの破損の防止、廃止の技術上の基準） 	木村	○
PRTR法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当する化学物質の排出量・移動量の届出。 	木村	○
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点検及び整備 	木村	○
道路交通法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全運転管理者の選任 ・ 講習の受講 	木村	○
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 届出を要する物質の指定（硫酸） ※200kg以上が対象（該当なし） ・ 消防用設備等の点検 	木村	○

7-1（環境部） 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	要求事項 / 規制内容 / 手続き事項	確認者	遵守評価
フロン排出抑制法	・業務用エアコンの3ヵ月に1回以上の簡易点検 ※定格出力7.5kw以下の為、簡易点検のみ	木村	○
自動車リサイクル法	・社用車の長期使用の促進 ・取引業者への引き渡し ・再資源化預託金の預託義務	木村	○
浄化槽法	・浄化槽の保守点検、清掃の委託 ・年1回の水質検査の実施	木村	○
毒物及び劇物取扱い法	・政令で定める劇物（硫酸・水酸化ナトリウム）	木村	○
労働安全衛生法	・名称等を通知すべき有害物質（硫酸・水酸化ナトリウム）	木村	○
計量法	・特定計量器（台貴）の定期検査	木村	○
水銀による環境の汚染の防止に関する法律	・水銀含有廃棄物の受入を行っていないので該当なし	木村	-
粉じん障害防止規則	・6ヶ月以内ごとに石膏ボード破砕施設の空気中の粉じん濃度を測定	木村	○
新潟県環境影響評価法	・環境影響評価の実施	木村	○
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	・適正な処理の促進を遵守	木村	○
柏崎市環境基本条例	・事業活動に伴う公害防止及び自然環境を適正に保全するために必要な措置を講ずる責務	木村	○
柏崎市火災予防条例	・少量危険物の貯蔵、取扱いの基準 ・少量危険物の保管の届出（200ℓ以上が対象）	木村	○
柏崎市公害防止条例	・事業活動による公害を防止するため、その責任において必要な措置を講ずる	木村	○

7-2（環境部） 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、環境関連法規等への違反はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

7-1（長岡営業所） 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	要求事項 / 規制内容 / 手続き事項	適用場所		確認者	遵守評価
		現場	営業所		
大気汚染防止法	・解体工事におけるアスベスト事前調査、報告（2週間前）	○		大平	○
水質汚濁防止法	・公共水域への排出及び地下水への浸透防止の策定	○		大平	-
浄化槽法	・委託先の許可の確認及び法に定める検査の実施 （保守点検、清掃、法定水質検査確認）	○	○	大平/高野	○
騒音規制法	・特定建設作業の届出（開始7日前） ・作業敷地境界において85デシベル以下	○		大平	-
振動規制法	・特定建設作業の届出（開始7日前） ・作業敷地境界において75デシベル以下	○		大平	-
消防法	・少量危険物の取扱（ガソリン200ℓ、灯油軽油等1000ℓ） ・消防用設備の設置と点検	○	○	大平/遠藤	○
資源有効利用促進法	・建築工事に伴う指定副産物の発生抑制と、再利用、再生利用、再資源化に努める ・現場に於ける細分別（分別箱の設置）の指導と確認	○		大平	○
廃棄物処理法	・委託先の許可の確認（収集運搬及び処理） ・委託先との契約締結の確認 ・契約書の5年間保存 ・マニフェストの交付、回収、照合 ・A・B2・D・E票の5年間保存 ・各関係役所への報告（新潟県、新潟市）	○		大平	○
家電リサイクル法	・適正家電業者に料金を支払い引き渡す 又、その際領収書を引取る		○	高野	-
建設リサイクル法	・分別解体、再資源化の促進 ・再生資源の利用	○		大平	○
自動車リサイクル法	・社用車の長期使用の促進 ・引取業者への引渡し ・再資源化預託金の預託業務		○	遠藤	○
グリーン購入法	・グリーン調達への対応 （出来る限り環境物の選択に努める）	○	○	大平/高野	○
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	・中間処理業者の処理施設の確認及び記録	○		大平	○
フロン排出抑制法	・機器の適切な設置、適正な使用環境の維持、確保 ・機器の定期的な点検 ・フロン類漏えい時の対処 ・機器の整備の記録、保存		○	大平	○

7-1（長岡営業所） 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	要求事項 / 規制内容 / 手続き事項	適用場所		確認者	遵守評価
		現場	営業所		
大気汚染防止法 ／特定粉じん排出作業	<ul style="list-style-type: none"> ・解体工事における石綿含有事前調査（対象全て） ・県及び労働基準監督署へ報告（石綿事前調査報告システム） （床面積80㎡以上・請負代金100万以上） ・発注者へ書面で説明（3年間保存） ・調査結果等の現場への掲示 ・特定粉じん排出等作業届書の県への提出 （レベル1・レベル2…14日前まで） 	○		大平	○
建築物省エネ法	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ法に沿った設計に基づき、その確認を実施する 	○		大平	○
建築基準法	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の設計及び工事監理 ・建築物の建築等に関する申請及び確認 	○		大平	○
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> ・石綿等の除去 労働基準監督署へ届出 レベル1…工事計画書（14日前まで） レベル2…建築解体等作業届（作業前） 	○		大平	-

7-2（長岡営業所） 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、環境関連法規等への違反はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者の見直しに係る指示事項	点検項目	改定の必要性	指示の内容
	環境経営方針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	継続
	環境経営目標	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	削減目標を立てる
	環境経営計画	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	処分場電気使用量削減の達成手段の見直し
	環境経営システム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	継続
	その他	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	特になし
代表者のコメント	<p>3か年中期環境経営計画の2年目が終了しました。</p> <p>環境経営目標のサイト別の達成状況は、本社では全項目、建設部では9項目中6項目、環境部では、9項目中8項目、長岡営業所では、8項目中6項目の目標達成となりましたが、次年度の環境経営目標について、基準年実績の維持や拡大ではなく、削減を図るよう指示しました。</p> <p>環境経営計画についても、最も電気使用量の多い処分場の電気使用量削減の達成手段を見直すよう指示しました。その他の部門に関しましても、可能な限り、削減に繋がる達成手段を講じるようにしてください。</p> <p>建設部は、2023年度に引き続き、次期2024年度も大型案件の工事現場が複数計画されています。各現場において、環境負荷削減のための創意工夫、作業効率の向上などを検討し、二酸化炭素排出量の削減に務めて下さい。</p> <p>近年の環境経営目標は「現状維持」の傾向が多く見受けられました。エコアクション21に取り組み始めて10年以上の歳月が流れ、大きな削減につながるアイデアも出難くなっているようです。しかしながら、世の中の変化や新技術による業務の効率化等の新たな要素も採用可能かどうかを積極的に検討していく事が益々重要になってきていると感じます。次年度も、削減目標を立て、新たな手段・方法を用いて、全社員一丸となってエコアクション21の活動に取り組んでいきたいと思っております。</p>		